

「大学3年生の就職活動に対する意識調査」結果

平成30年11月

福井商工会議所

本調査結果報告に関するお問い合わせ先

TEL : 0776-33-8283

福井商工会議所 経営支援・人材育成課 (小谷・廣澤) E-Mail : keiei@fcci.or.jp

I 調査結果

1. 目的

福井県インターンシップ事業に参加した大学生を対象に調査し、学生の就職に対する意識や動向を把握する。

2. 実施日

平成 30 年 11 月 4 日

3. 対象

福井県インターンシップ事業の参加学生（主に県内大学の 3 年生）

4. 方法

「インターンシップ事後研修会」参加学生に配布・回収

5. 回答者数

251 名（調査票 252 枚配布、回答率 99.6%）

6. 回答者の属性

性別

	人	%
男	126	50.2
女	125	49.8
計	251	100.0

出身

	人	%
県内	205	81.7
県外	46	18.3
計	251	100.0

専攻

	人	%
文系	158	62.9
理系	93	37.1
計	251	100.0

Ⅱ 結果概要

1. 希望する就職地 (P3)

- 「県内」出身者は半数超が県内で就職を希望 「県外」出身者は6割が思案中
大学3年の秋時点で「県内」で就職を希望する学生は46.9%と約半数を占めた。

2. 志望業種が決まっているか (P4)

- 志望業種が決まっているのは6割
大学3年の秋時点では「志望業種がある」学生は6割となった。まだ4割の学生が業種の志望が定まっていない。

3. 志望業種 (P4)

- 男女とも「製造業」「公務員」の志望高く
「志望業種あり」と回答した学生に志望業種を聞いたところ、「製造業」が最も高く33.1%となり全国と比べて製造業の構成比が高い本県らしい結果となった。

4. 就職活動開始時期 (P6)

- 「3年夏」が約半数、女性の方が取り掛かりが早い傾向
就職活動を始めた（もしくは始める）時期は、「3年夏」が最も多く47.1%となり、「入学時」から「3年夏」までに76.0%の学生がインターンシップや企業情報収集など何らかの就職活動に取り組み始める、意識していることが分かった。

5. 就職先企業を選ぶ際に重視すること (P7)

- 「労働環境」を重視 「県外」出身学生は仕事内容を重視する傾向あり
就職先企業を選ぶ際に重視することとして最も多かったのは「職場の雰囲気が良い」で66.5%だった。次いで「勤務条件・休日の条件が理想的」が58.2%、「福利厚生が充実」が49.8%と続き、労働環境を重視する傾向が強い。

6. 重視する情報収集方法 (P9)

- 「就職情報会社」「合同企業説明会」「大学キャリアセンター」を重視
就職活動の情報収集方法は、マイナビやリクナビなどの民間の「就職情報会社」が最も多く66.5%となった。次いで「合同企業説明会」が58.6%、「大学キャリアセンター」55.4%と続いた。

7. 就活ルールの必要性 (P10)

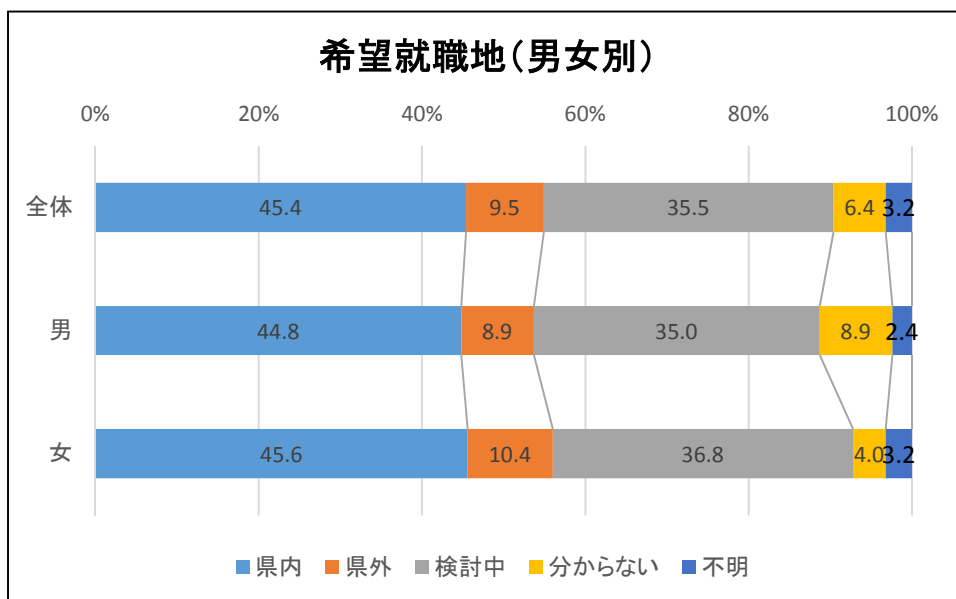
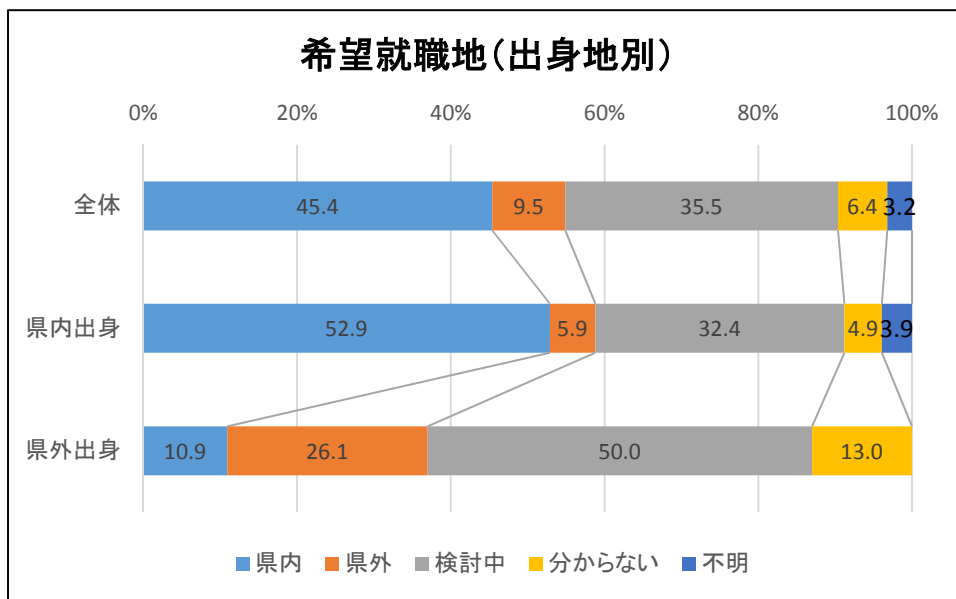
- 「学業影響」「就職活動長期化」等を理由に7割が「あった方が良い」と回答
就活ルールによる日程の目安は「あった方が良い」が約7割となり、多くの学生は日程の目安があった方が就職活動に取り組みやすいと考えている。

1. 希望する就職地

「県内」出身者は半数超が県内で就職を希望 「県外」出身者は6割が思案中

大学3年の秋時点で「県内」で就職を希望する学生は45.4%と約半数を占めた。全体で見ると、9.5%が「県外」での就職を希望しており、「県内」45.4%と合わせて54.9%がこの時点で就職希望地を決めている。

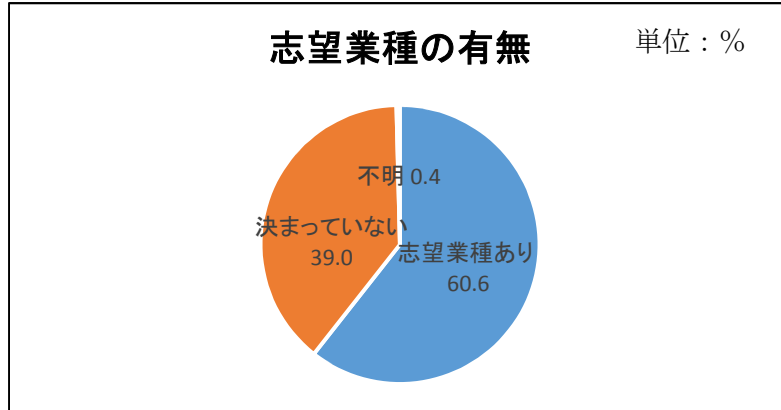
出身地別に見ると、「県内出身」学生は52.9%が県内での就職を希望しており、「県外」を希望する学生は5.9%にとどまった。また、「県外出身」学生は「県内」での就職希望者が10.9%にとどまり、「検討中」の学生が半数を占めた。「まだ分からない」13.0%も合わせると「県外出身」学生の63.0%がこの時点では就職地を絞っていない。



2. 志望業種が決まっているか

志望業種が決まっているのは6割

大学3年の秋時点では「志望業種がある」学生は6割となった。4割の学生の志望業種が決まっていない。

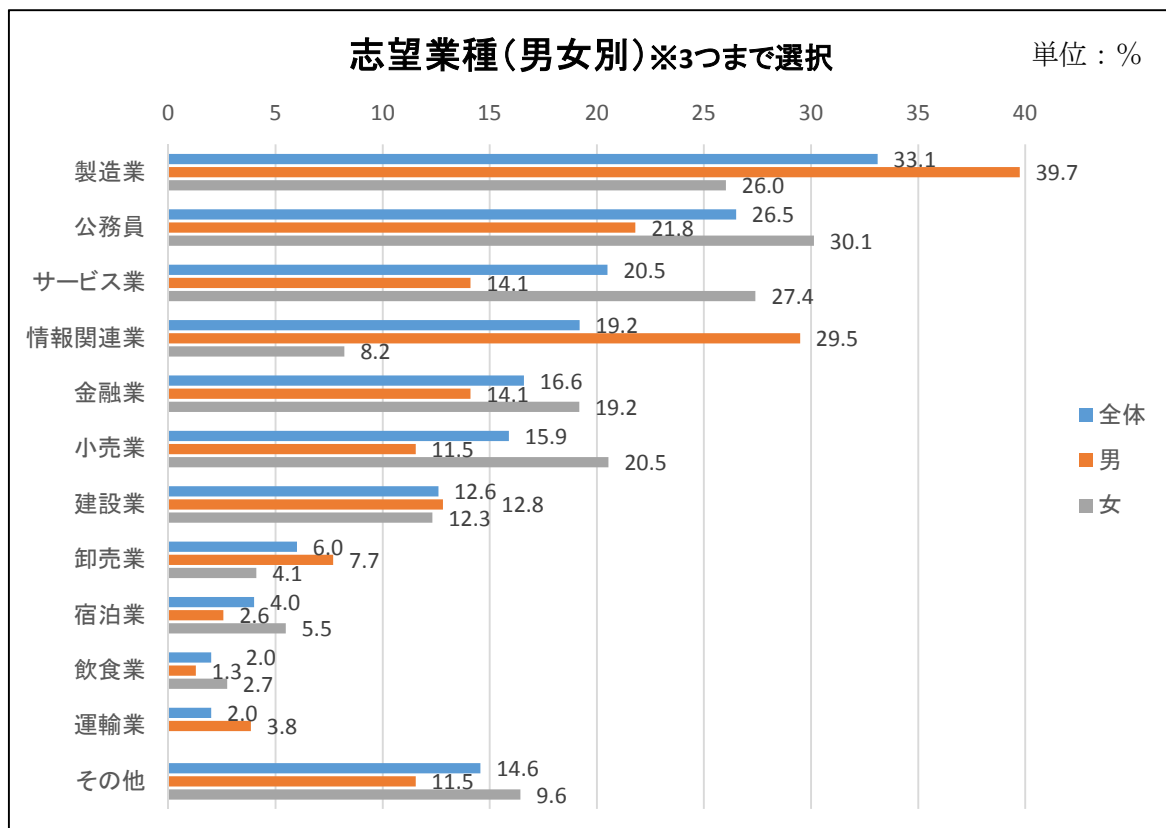


3. 志望業種

男女とも「製造業」「公務員」の志望割合高く

【男女別】

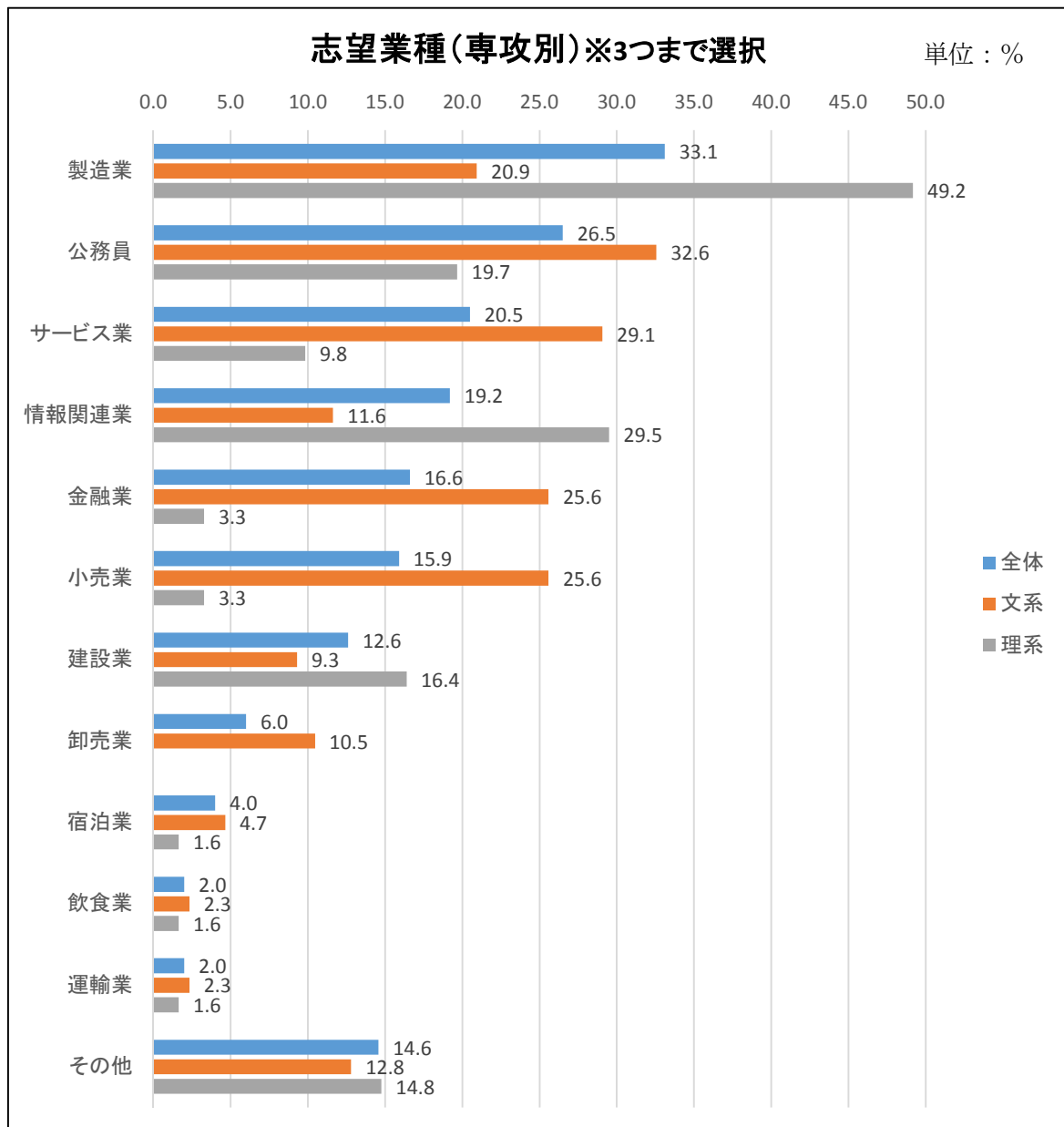
「志望業種あり」と回答した学生に志望業種を聞いたところ、「製造業」が最も高く 33.1% となり全国と比べて製造業の構成比が高い本県らしい結果となった。男女とも「製造業」、「公務員」を志望する割合が高い。



【専攻別】

文系と理系で比較すると、「文系」は「公務員」が最も多く32.6%となった。続いて、「サービス業」が29.1%、「金融業」、「小売業」が25.6%と続いた。「文系」は安定性のある「公務員」の人気が高くなったが、専門性をあまり求められない「サービス業」、「金融業」、「小売業」などの業種を志望する結果となった。

「理系」は「製造業」が最も多く49.2%とおおよそ半数の学生が志望している。続いて、「情報関連業」が29.5%、「公務員」が19.7%と続いた。「理系」は専攻分野を活かせるであろう「製造業」、「情報関連業」を志望する割合が高くなった。



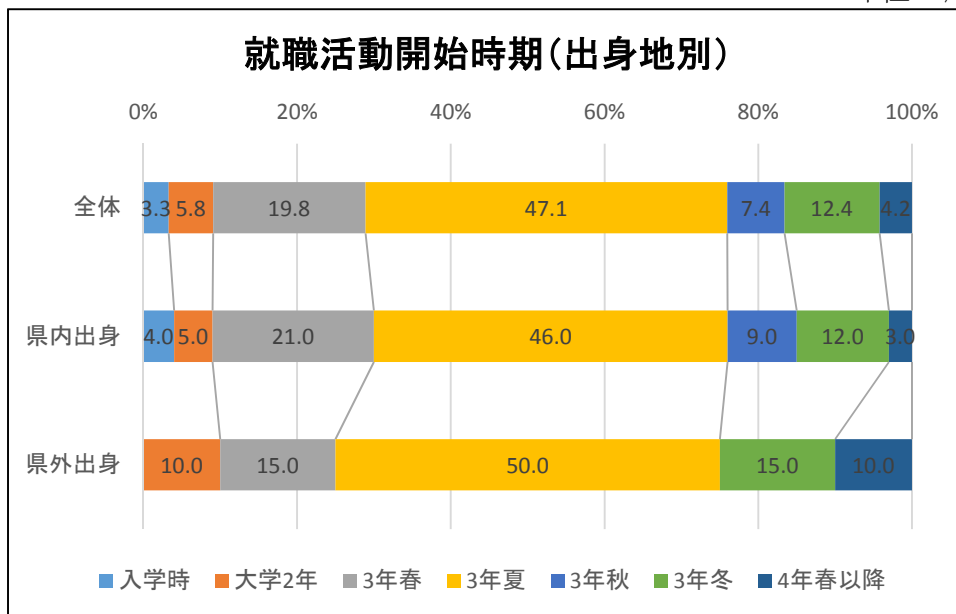
4. 就職活動開始時期

「3年夏」が約半数、女性の方が取り掛かりが早い傾向

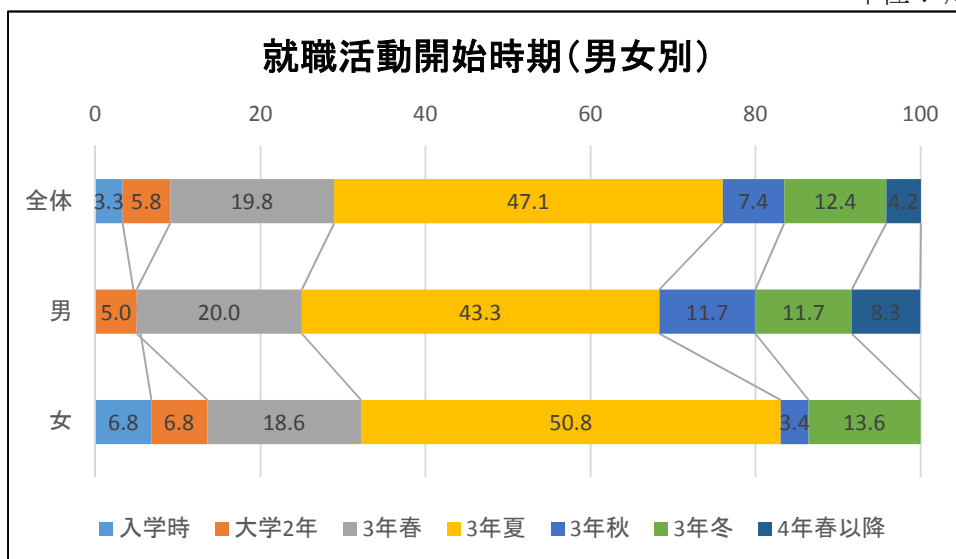
就職活動を始めた（もしくは始める）時期は、「3年夏」が最も多く47.1%となり、「入学時」から「3年夏」までに76.0%の学生がインターンシップや企業情報収集など何らかの就職活動に取り組み始めることが分かった。

また、性別で比べると「女性」の方が「男性」に比べて「3年夏」までに活動を始めるという回答が14.7ポイント高くなり、「女性」の方が就職活動への取り掛かりが早い傾向となった。

単位：%



単位：%



※有効回答数のみで集計

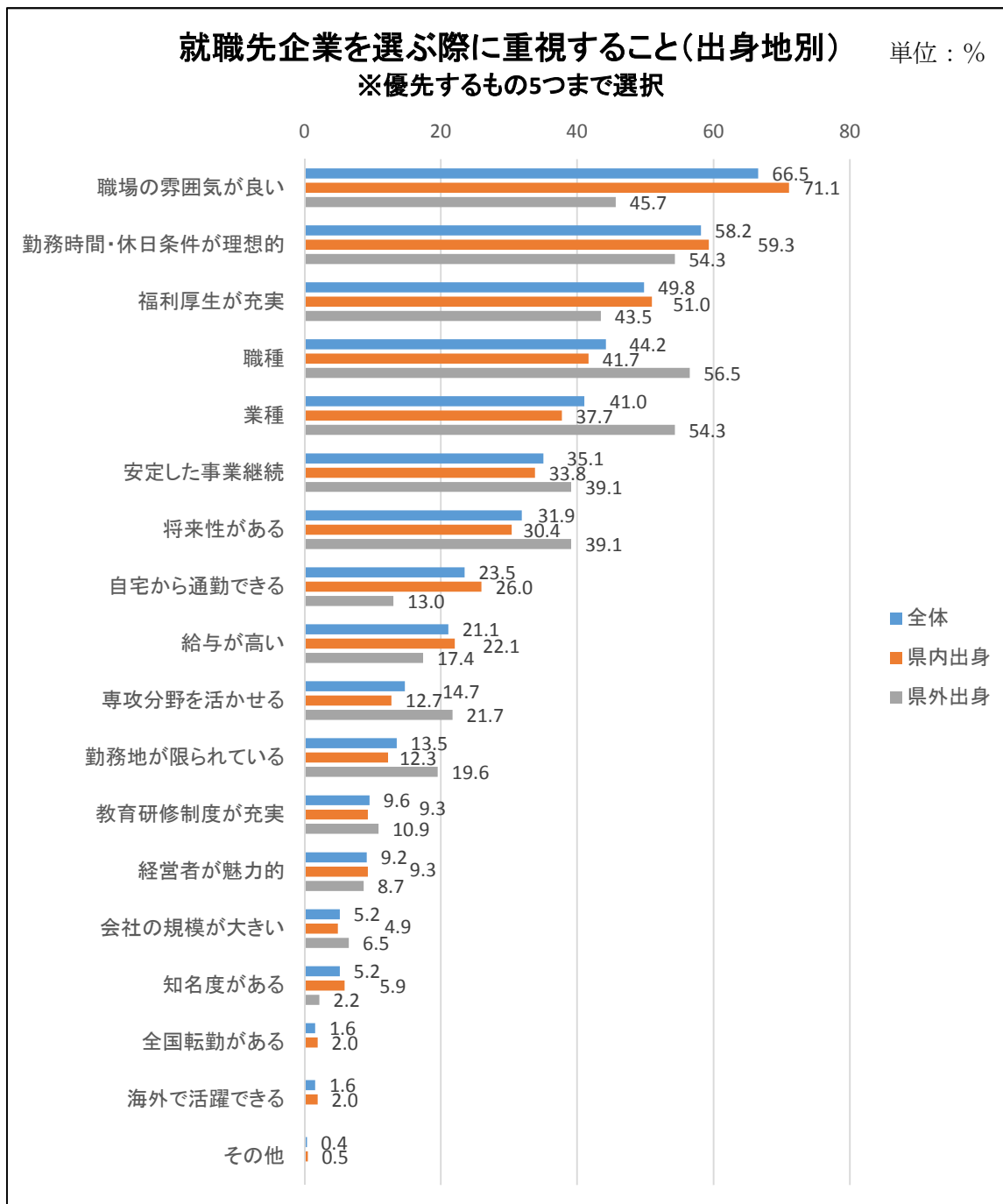
5. 就職先企業を選ぶ際に重視すること

労働環境を重視 「県外」出身学生は仕事内容を重視する傾向あり

【出身地別】

就職先企業を選ぶ際に重視することとして最も多かったのは「職場の雰囲気が良い」で66.5%だった。次いで「勤務時間・休日の条件が理想的」が58.2%、「福利厚生が充実」が49.8%と続き、労働環境を重視する傾向が強い。

出身地別で比較すると、「県外」出身学生は、「職種」、「業種」や「安定した事業継続」、「将来性がある」等、業種や仕事内容を重視する傾向が県内学生より強い。



【男女別】

男女別で見ると、「女性」は約8割が「職場の雰囲気が良い」を重視すると回答している。次いで60.8%が「福利厚生が充実」を重視しており、「男性」より23.4ポイント高くなった。「女性」は「男性」より職場の労働環境を重視して企業を選ぶ傾向が強い。

就職先を選ぶ際に重視すること（男女別）※優先するもの5つまで選択

順位	男性		順位	女性	
1	勤務時間・休日条件が理想的	57.7%	1	職場の雰囲気が良い	79.2%
2	職場の雰囲気が良い	53.7%	2	福利厚生が充実	60.8%
3	職種	44.7%	3	勤務時間・休日条件が理想的	59.2%
4	業種	43.9%	4	職種	44.8%
5	福利厚生が充実	37.4%	5	業種	37.6%

【専攻別】

文系と理系で重視すること上位5項目を比較すると、「文系」は、「職場の雰囲気が良い」が最も多く73.5%にのぼった。続いて、「勤務時間・休日条件が理想的」61.3%、「福利厚生」58.1%、「職種」43.2%、「業種」39.4%と続いた。

「理系」では、「雰囲気」、「勤務時間・休日条件が理想的」が最も多く55.6%にのぼった。続いて「職種」44.4%、「業種」43.3%という順となった。また「安定した事業性」も38.9%にのぼった。「職種」、「業種」といった理系の専門分野を活かせるかどうかを重視するが、比較的景気が良い今の就職活動では、「職場の雰囲気が良い」、「勤務時間・休日条件が理想的」といったより良い条件を求めて企業を選定している様子が見える。

就職先を選ぶ際に重視すること（専攻別）※優先するもの5つまで選択

順位	文系		順位	理系	
1	職場の雰囲気が良い	73.5%	1	職場の雰囲気が良い	55.6%
2	勤務時間・休日条件が理想的	61.3%	1	勤務時間・休日条件が理想的	55.6%
3	福利厚生が充実	58.1%	3	職種	44.4%
4	職種	43.2%	4	業種	43.3%
5	業種	39.4%	5	安定した事業性	38.9%

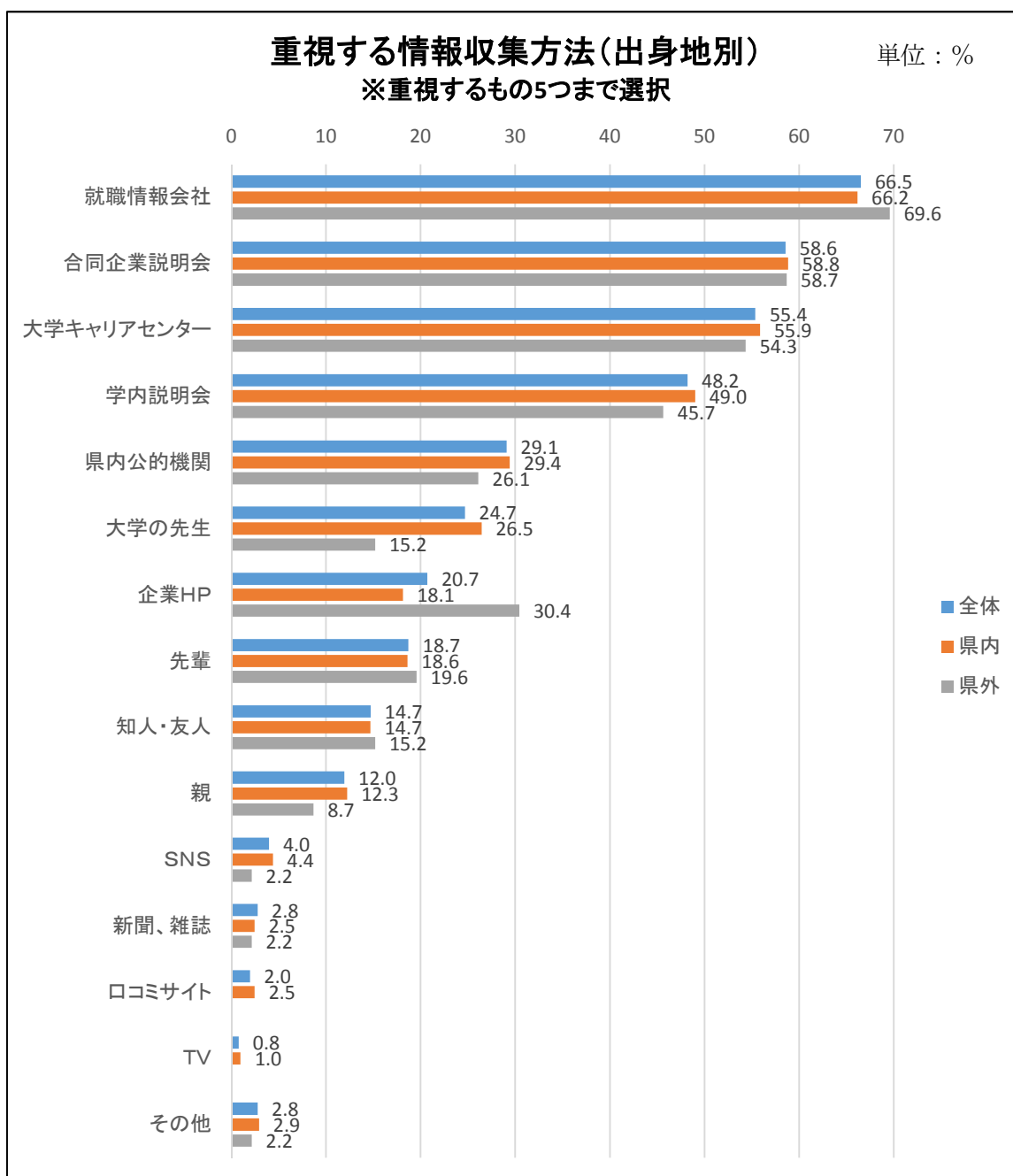
6. 重視する情報収集方法

「就職情報会社」「合同企業説明会」「大学キャリアセンター」を重視

就職活動の情報収集方法は、マイナビやリクナビなどの民間の「就職情報会社」が最も多く 66.5%となった。次いで「合同企業説明会」が 58.6%、「大学キャリアセンター」55.4%と続いた。

県内企業採用担当者からは、新卒採用が本格化する大学 3 年の冬から大学 4 年の春では「合同企業説明会」への参加学生が少ないとの声も聞かれるが、大学 3 年の秋時点では「合同企業説明会」での情報収集に対する期待は大きいようである。

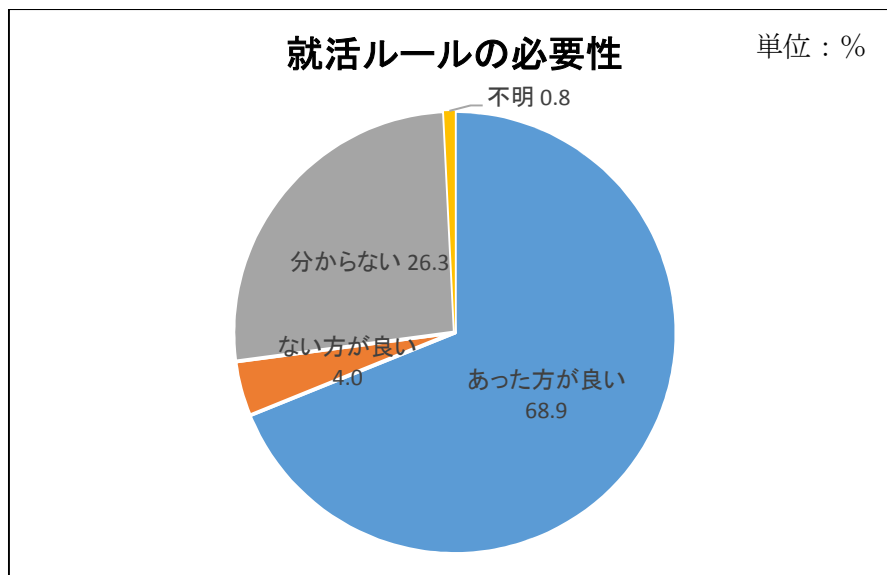
出身地別で比較すると、「県外出身」学生は個別企業の「企業 HP」からの情報収集が重要だと考える学生が 30.4%と「県内」学生より 12.3 ポイント高かった。



7. 就活ルールの必要性

7割が「あった方が良い」と回答

就活ルールによる日程の目安は「あった方が良い」が約7割にのぼり、多くの学生は日程の目安があった方が就職活動に取り組みやすいと考えている。



8. 就活ルールがあった方が良いと答えた理由

「学業影響」、「就職活動長期化」を懸念

「就活ルール」が「あった方が良い」理由としては、「学業に支障が出る」が最も多く44.5%となり、「就職活動が長引く」が30.6%、「やめどきが分からない」が23.7%と続いた。

また、「何となく」も17.9%を占めており、就活ルールがなくなることによってどんな影響が出るか分からないものの、感覚的にあった方が就職活動に取り組みやすいと考えている学生もいる。

